

THE ROTARY CLUB



OF YAMATO-NAKA

大和中ロータリークラブ会報

YOU ARE THE KEY あなたが鍵です

1985-86 R.I 会長 エドワード F カドマン

上田会長 クラブターゲット

仲よく 語ろう ロータリー

第 365 回 例会 60 年 10 月 3 日 第 378 号

出席報告

会 員 数	出 席 数	出 席 率	前回の修正
55 名			

欠 席 者

《 会 長 報 告 》

お忙しい所、多数お出かけ下さいまして有難うございます。

○お手元にお配りしました新会員候補のお知らせでございます。飯島順一郎さんという方が有沢会員の紹介で参っております。よろしく御検討の程、お願い致します。

○地区大会で表彰がございましたのでその披露をさせていただきます。第 2 日目に行われまして、新ポールハリスフェローに中クラブから辻さん、後藤さんと私、上田が受けました。新米山功労者には高橋さんが受けられました。前年度の猪熊会長並びに富沢増強委員長他皆様のおかげで中クラブは会員増強伸率優秀クラブ第 2 位という事で表彰を受けました。盾は次回の例会に皆様にお見せ致します。米山功労クラブとして表彰も受けましたので、それも次回に見せます。

本日のプログラム 10 月 17 日

クラブフォーラム「職業奉仕について」

次 週 予 定 10 月 24 日

米山記念奨学会について

司会 SAA 伊藤 英夫君

ソングリーダー 《 幹 事 報 告 》

○本日の参加費用ですが、従来ですと現場で集金していましたが、大変急げ者ですですのでそういう事は事務局にお任せしまして、例会の時に集金しますので、13,000 円を高橋女史の方へ納入下さいますようお願い致します。

○地区大会の登録料ですが、全員登録ですので、1 名 6,000 円を未納の方は同じく事務局の方へお願い致します。

○来週の 10 日は祝日ですので例会はございません。メイクアップの件については出席委員長さん、よろしくお願い致します。地区大会に出席された方はメイクアップになりますが、前回の分の場合には気をつけて下さい。

《 委員会報告 》

出席委員会、親睦委員会（お祝いの人々）、スマイルボックス他委員会報告は次回に致します。

1. 真実かどうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

事務所：大和市中心 1-5-40
大和市商工会館内
☎0462-63-7926
例会場：大和市大和南 1-4-4
八千代信用金庫大和支店 4 階
☎0462-64-3654

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分より
会 長：上 田 利 久
会長イクト：藤 田 重 成
副 会 長：富 沢 重 徳
幹 事：近 藤 富 士 男
会報委員：松 崎・種ヶ島・木 村

《 第四回クラブ協議会 》

「地区大会を終えて」

28日、29日地区大会には大勢の方々のご出席を頂き御苦勞様でした。それぞれに何か得るところがあったかと思いますが、特に四大奉仕部門について各委員長の方々はかなり批判もあると思いますが手短かにまとめて頂きお話頂きたいと思います。

◎クラブ奉仕部門（富沢）

クラブ奉仕部会に会長、幹事、上村さんと私が出席しまして勉強してまいりました。

テーマは、ロータリーは人を磨く、ロータリーの魅力と活力ということで、津田直前パストガバナーがリーダーで、サブリーダーが司会進行しました。素直に感想を言いますと、ロータリーは人を磨く、ロータリーの魅力と活力ということで、テーマがデカすぎて立派なのですが中身は大変貧弱であり、それともう1つはクラブ奉仕というのは委員会が非常に沢山ありまして、それぞれ専門的で、これをそれぞれサブリーダーが時間がないのにフーフー言って説明をし、それから全部説明した後になにか質問はないかというような進行をされますと、どこに焦点を絞っていいかわからず、出来ればクラブ奉仕部会一つを掘り下げてじっくりとして欲しい。

それとサブリーダーに言いたい事は事前にどこかプログラムの中にこのいう事をするから質問を用意しろ、というようにやっていかないと、人は磨けないと思います。ですから準備をよくすることとやり方をもう少し考えてやったならばそれこそ人を磨くというか、もう少しロータリーの真髓に近づいた意見の交換が出来るのではないかという事を感じました。

◎職業奉仕部門（清水）

テーマとしては職業を通じて心の健康作りにロ

ータリーは奉仕するということでした、健康というのは健体康心の略で、健やかな体に康らかな心をと云うことで、心の健康作りにロータリーは奉仕するということ、何かゴテゴテともってまわったような気がしました。

私が職業を通じて奉仕するというだけでいい訳ですけど、心の健康作りだけに奉仕するということはないのではないかという感じを受けました。職業奉仕の推移についてという話があり、1905年にシカゴで4人集まった時の状態というのは、人を見たら泥棒と思え、という時代であった。

それで4人が集まって職業奉仕というような考えが生まれたのだということで、その時は4人集まって信頼出来る仲間を増やす。ロータリー以外の人は信頼出来なかったというような時代であったと。カンゴクは一杯になるし、借金は返さず、金利は払わずと云った社会であったと、それで職業奉仕から始まったというような話でした。従ってこれが今のように職業奉仕と言いますと、全ての企業の人が世の中に奉仕をするという事でスタートしている訳ですから昔の時代とは大分考え方も変わって来ているのではないかと思います。

今の企業は全部が職業奉仕を徹底してやろうとしていると云うこと。又それでないと成功しないというようになっているというのは今の日本は良くなっているなというふうに思いました。

◎社会奉仕部門（古木）

今年のテーマは高令者の活力が生きる社会を築くという非常に難しいテーマでしたが、内容は5人のサブリーダーの方々が発表しましたが、だいたいが高令者に対する活力をどうしようかと云うようなことでした。今の高令者というと60～70才の方々だと思いますが、そういう方は非常に苦勞された方で、ほっといてもなんとかやって行く方ばかりだと思います。フロアーからも高令化社会に向ってどうするかということをロータリー

ではやって行った方がいいのではないかという質問が出ました。サブリーダーの方が細かい説明をされまして、実行している事も発表され、質問時間がない程になってしまいました。我がクラブでやっている子供の温もりからこれからの高令化社会に向ってどうするかと云うことをロータリーは考えた方がいいのではないかと私は思いました。とにかく、残念なことは高令化社会に向って今の30～40代の人々がやって行くにはやはり生涯教育というか、生涯学習というかそういうこともロータリーで出来るものはないかと感じました。

◎国際奉仕部門（後藤）

内容としては、リーダーの挨拶の後、サブリーダーらにより①381地区382地区との提携について、②財団協力と国際理解について、③国際親善活動という内容の中での姉妹クラブ及び海外技術研究生援助について、④GSEの受け入れについて、⑤米山奨学生の日本に対する理解と親善について、各々説明がありました。

全体会議の時間が時間通り進まないというふうな中で私共国際奉仕部会についても時間が制約されて、かつ、このように大勢の方から難しい問題についての説明だけで程ほどの時間が費やされまして、残る時間が15分位しかなく、質疑応答も満足に出来ない状態でした。その中で非常に難しい、政治的な内容も含まれている質問があり、それに対してリーダー達の答えがその内容に一言も触れることなく終ってしまいまして、私なりの考えですが、ロータリーのリーダーたる方がいかに難しい質問であっても、その問題について適切なアドバイスが出来ないなら、それなりに後日、本人に説明するというような態度を示して下されば質問した人も納得されるだろうし、又、ロータリーの活動に対しても熱心な今後が期待されるのではないかと感じました。

なんの発言もなくサッと会議を打ち切られたとい

うふうな事になり残念です。

始まりのリーダーの話にハート・トゥ・ハートというような人種、主義、主張、国境というようなものを超越した話に私も感銘を受けて会議をスタートしたにも拘らず、最後にこのような結末で終われたと云うことで非常に失望した訳です。

◎青少年奉仕部門（高橋）

テーマとしては、あなたの立場で青少年問題を考えるということで、それについて5人のサブリーダーから報告がありました。

結論としまして、エドワード・F・カドマンRI会長が「あなたが鍵です。社会の扉を開いて下さい。」まさにこの開いて下さいと言うことが、この中で青少年奉仕の中で一番大事な鍵ではないかというように感じました。

非行の問題が出ましたが、先日の我がクラブのクラブフォーラムでも取り上げましたが非行と云うことは時代が過ぎている事で依然として古い資料に基づいて、こう云う問題を取り上げると云う事は地区の協議会の中ではちょっと古いのではないかという気がしました。それから、インターアクト、ローターアクトについても非常に低調であるということで、上野ガバナーはこのローターアクトについて力を入れているという事で、増強を進めているということです。公式訪問の際に各クラブに行つてこのことは必ず言っているはずだということですが、我がクラブの公式訪問の時にはこのローターアクトについては全然触れていませんでした。ローターアクトとインターアクトを既存のクラブではいかにして維持していくかということでこれが非常に深刻な悩みになっているということです。中クラブではこういうのはやっていませんが、ぜひ近くの高校とかに行つてクラブをやって欲しいという事でした。

青少年交換については現在19名の外国からの交換学生が来ております。その中で確認された報告が

あります。クラブ対クラブの青少年交換を行うということが原則だそうです。そして交換学生のためにその費用として1人1,500円の負担をして頂き、そうすると地区では750万円の金が集まることになり、それを年間15人の交換学生を受け入れた費用に当てることになると発表がありました。青少年指導者養成セミナーというのがあります。略して「ライラ」と云うそうですが、これについても研修生が少ないと云う事で積極的に研修生の推薦をして頂きたいと云う事でございます。地区の方でもう少し地域に即した青少年活動を一早く取り入れてやるのが「鍵を使って社会の扉を開く」というようなことではないかと感じました。

11月はロータリー財団月間

何もしないうちにロータリー財団月間が終わってしまわないように今からカレンダーにしろをつけておくべきである。この特別月間があることで、クラブは、国際ロータリーのロータリー財団が行っている素晴らしい仕事を認識することができ、かつまた、クラブとして独自に国際奉仕に寄与できるのである。

まさに発足しようとしている重要なポリオ・プラス・プログラムと軌を一にして、11月には、このプログラムに積極的に加わり私達の役割を果たすための計画を立てよう。それが募金計画であれ、地元での広報キャンペーンの開始であれ、私達は、ロータリー並びに財団のこれまでにない意欲的かつ大がかりな国際的プロジェクトに携わることになる。

しかし、ポリオ・プラスがロータリー財団関係の唯一のプログラムであるというわけではない。諸種の財団奨学金プログラム、研究グループ交換3-Hプログラム、特別補助金をも忘れないようにしよう -- ロータリー財団月間をなおざりにしてはならない。

シンポジウム

アジア留学生から見た日本

国際理解と親善を深めるために

昔の日本人は頑張り屋さんが多く、今日の日本を築き上げたと思いますが、今の日本の若者、学生は頑張るどころか何もしようとしない。マンガを読みふけり、イッキイッキのコンパに明け暮れ、日本の大学は大学の資格を失っている。現在の20代の人達が重役になる頃の日本は一体どうなっているのだろうか。日本人の個性とは何んなのだろうかと鋭い目で今の大学生を評価している。

記念講演

三浦 朱門

国際親善と情勢と方法

戦上に掛ける橋、猿の惑星にみられる日本人独特な仲間意識、組織化を猿属に見立てての評論。また、例えば輸入戦争においてもアメリカは外交が下手で馬鹿正直に攻めてくるが、フランスの戦いはシャレている。日本からフランスにVTRが輸入された時、フランスではその技術がなかったため、フォアティエという町でチェックする体制をとった。この町に税関を作って時を稼いだわけで、シャレた攻め方ではないか。

そんなフランス人から見て自分達だけの世界を作り、集団で行動し、独り独りの個性をもたない日本人を猿に見立てての作品であると言える。世界の中で日本人は何を犠牲にし、何をやろうとしているのか。我々の存在意義とは何か。日本人は皆同じ仮面をかぶった集団としてではなく、国際的人格を持った高い知識人としてそれぞれの個性を持った個人として世界という場において生きていくことこそが必要であろうと語りかけておられました。

編集後記

一生懸命、行数計算をしながら編集したつもりが、なんと！大胆な計算間違いをしてしまいました。